



長久手市文化の家
NAGAKUTE Cultural Center

フレンズ

No. 48

2013年1月15日発行

機関紙 フレンズ 編集部

Tel : 0561 (61) 3411

ていだん

新春鼎談

文化の家 開館十五周年に向けて

文化活動への思いを語る

今年の7月で「文化の家」は開館15周年を迎えます。加藤登美子事務局長を迎え、フレンズの水野美々子さんと山口節子さんの三人で開館当時の思い出話や現在の活動、これからの文化事業への思いを語っていただきました。



(左から)山口フレンズ事務局長・加藤文化の家事務局長・水野フレンズ会長

水野：あけましておめでとうございます。今年7月には開館十五周年を迎えます。加藤事務局長は、開館当時は文化の家の職員として立ち上げにご苦労された、いわば同志でしたね。(笑)

加藤：平成10年の開館当初から4年間在籍し、平成22年に8年ぶりに戻ってきました。正直、最初は文化に縁遠い生活だったので。(笑)、どうしたものかと思つたのですが、当時の事務局長から「文化サロンの方たちが既にいろいろなことを検討しているので、よく相談して友の会の要綱作りから進めるように」といわれました。

山口：文化の家の開館前から町民に呼びかけがあり「文化サロン企画懇話会」が組織され活動をしておりました。その主なメンバーが、文化の家の開館に合わせて、そのまま支援組織フレンズに移行したわけです。

加藤：準備段階で建設・運営委員会の審議を経て、町の文化振興ビジョンとなる中長期的な視点での「マスタープラン」がありました。基本理念として「長久手文化の創造・交流・共有」をうたい、地域特有の文化を育むことを共通の認識として持ち合おうという願いでもありました。

山口：最初はスタッフの接遇マナーも個人任せで手探り状態でしたね。(笑)

水野：私も知人に誘われてフレンズに入会しスタッフに参加したのですが、はじめは基本となるものを教えて下さいといった状態でしたね。

加藤：職員も最初は運営もよくわからない状態でした。平成16年に専門家を招いて「シアター・

マネージメント」講座を受け、県内の文化会館関係者も招きながら基本を学んだのが今のベースになっていますね。

山口：講座内容は多岐にわたるので数回にわたって学習し「シアター・マネージメント・マニュアル」をフレンズで完成させました。今はマニュアルを対象に講習会を開いています。

加藤：他の会館でも長久手のやり方を取り入れているところが多いようで、良い見本として先駆的な立場ですね。

水野：ここ(文化の家)の名称は文化会館ではなく「家」とされましたが、それは市民が寄り合える所ということで、なるべく多くの人に足を運んでもらいたいとの考えからでしたね。住民が集える場所の「家」という意味でも「文化の家」は貢献していると思えますがどう思われますか？

加藤：そうですね。文化を育むのは時間のかかるのだと思います。私は種まきといっているのですが、できれば子供の頃から文化に触れ、馴染んでもらう…、成長して文化に深く関わるもよし、別の道を進むもよし、その場合でも文化に触れたり、体験したことが子供たちの将来に良い影響があればと願っています。長久手在住の演奏家の方も文化の家で演奏会を開くと身近な人たちをお誘いできて嬉しいとの話も聞いています。

水野：文化の家が散歩の途中で住民が気楽に立ち寄れる場となるのは大歓迎ですね。

加藤：文化の家は大きくはホールとアトリビュング活動に分けられますが、施設の使用申し込みは多く、特に発表会などは週末に集中するのでいつも抽選で決めるほど盛況で、市民に浸透しているのは確かですね。

文化を支える両輪

水野…最近あるスタッフから「事務所に入った時、皆さん明るいあいさつで迎えてくださったって気持ちが良い」という声を聞き、仲間として一緒に支えあっている意識が一層強まりました。

職員の方は定期移動で変わりますがスタッフは長く続けている人が多いので、定期的に職員さんと懇談する機会を設けてはどうかと思っています。

加藤…あいさつでそう思っていたことは職員の一人として嬉しいですね。こんな時代ですから職員の増員は望めないし、今の人数だけでは文化の家を運営することはできませんからね。是非そういう機会を設けましょう。

フレンズの活動は文化の家にとって大きなサポートだと思っていますから。

山口…普通、ボランティアというと行政が上にあつて、その下でボランティア組織が動かされていることが多いのですが、フレンズは主体性をもった組織として自主的に活動しているので、それがやりがいにつながっていると思いますね。

水野…川上館長からはいつも「文化の家とフレンズは車の両輪」に例えられ高く評価をいただいています。加藤さんの先ほどのフレンズへのことばをお聞きし大変励みになりました。(笑)

「絆」を育む文化の力

水野…フレンズは一般会員が当初400名ほどでスタートし、現在は500

600名の会員で支えられています。割引などの特典もありますが、基本的には催し物を充実させることが、会員への最大のサービスだと思います。新年度も同じ予算規模のものが計画されるのでしょうか？

加藤…まだ明確には言えませんが、企画段階では同じレベルのものは予定できそうです。

水野…フレンズは毎年会員の更新をお願いし、郵便局を利用するなど工夫もしていただいておりますが、やはり窓口更新が多いのが実情です。わざわざ更新だけのために文化の家に行くのは面倒という声が多いのも事実です。できれば年度初めに人気のある企画をしてもらうとありがたいですね。

加藤…長久手市になって1年が過ぎました。開館当時4万人弱の住民も5万4千人になるうとしています。新しい市民の方にも、もっと文化の家を知ってもらう活動をしたいと思っています。

山口…文化の家が市民の方たちにもっと身近に…、例えば今日は何をやっているのか、通りすがりの人にも分かるような案内板を表の通りに設けるなどの工夫も必要ですね。行政の枠組みもあるでしょうし、景観を大事にとの意見もあるようですが…、もっとアピールしても良いのではないのでしょうか。加藤…市民の方に催し物を知ってもらうことが基本ですからね。

フレンズの活動は高く評価され文化活動の支援にとどまらず、行政の催しにも関わっているのは文化の家にして

も心強いものです。

水野…そういつてもらえると嬉しいですね…、また頑張つてまいります。(笑) 私は福祉にも関係しているのですが、心の豊かさや心の糧として文化は重要な役割を果たしています。

東日本大震災で被災された方々は、最初は食料や住環境が優先されますが、ある時間を経過すると、コンサートやお芝居などで笑顔を取り戻していく…、芸能界の方ばかりでなく、中学生や高校生の合唱団も立ち上がって住民同士で励ましていく。その様子を見て多くの人は「市民が幸せに暮らすには福祉も文化も、どちらも重要だ」と思われたのではないのでしょうか。

住民の関心がバロメーター

加藤…今後、文化の家の特徴づけをどうするのかですが、演劇に関しては高く評価をいただいております。限られた予算の中での「おんばく」や「長久手オペラ」は良くやっているとの声もあります。市となつて他と比較されると、より高いレベルを望む声も出てきますからね。市民のご意見を反映するのは、私たちのこれからの課題だと思つています。

山口…市民に関心をもつていただくために例えば、今年が開館十五周年を迎えるわけですから、今までどんな催し物を開催してきたのか多くの方に知ってもらうのもよいのではないのでしょうか。過去の催し物のポスターやチラシ、出演者のサイン色紙などを展示してみ

れば、文化の家を利用されている方々に楽しんでいただけるのではないかと思います。

水野…スタッフを取り上げられることが多いのですが、実際フレンズは一般会員の支えがあるからこそその活動です。フレンズの会員数の増減は住民の関心のバロメーターだと思っています。

加藤…昨年の「アートフェスティバル」の展示も好評でした。そういった活動の中から市民の声を吸い上げていくことは大切でしょうね。

文化振興施策の基本理念は「ともに創るきらめく長久手」ですから、「長久手文化の創造・交流・共有」の基本に立ち返り、市民とともに歩む文化の家を目指したいですね。

それにはフレンズの組織とスタッフの支援は欠かせません。あらためて、本年もよろしく願います。

水野…山口…やはり、私たちは車の両輪ですね。(笑) こちらこそよろしくお願います。



「文化の家とフレンズは両輪…」と話がはずむ

フレンズのつどい Part・28

『ヨーロッパ街角楽団・フィドルの世界』開催

悠情楽団と西田・佐藤ダンスペアのコラボを満喫

2012年12月2日(日)

長久手市文化の家 森のホールで

フレンズのつどい Part・28 クリスマス

スコンサート&ティーパーティーを12月2日文化の家森のホールで開きました。

今回は『ヨーロッパ街角楽団・フィドルの世界』と題し、悠情楽団と西田・佐藤のダンスペアとのコラボレーションを楽しんでいただくため、一番大きい森のホールで開催しました。馬蹄形の平土間という普段あまり見かけない舞台のつくりで大勢の観客が一足早いクリスマスを楽しみました。

第一部は悠情楽団の「戦場のメリークリスマス」で始まり「ホワイトクリスマス」「人生のメリーゴロンド」と、クラシックとは一味違う、悠情さんの土の匂いのある力強い演奏に、ヨーロッパの街並みを思い浮かべる人もいたことでしょう。サービス精神旺盛な悠情さんは、曲のどこかにクリスマスソングの響きを忍ばせ観客を喜ばせていました。バイオリンの優雅な音色に身を寄せると、軽快なチャチャチャのリズムに



悠情楽団の演奏と西田克義・佐藤晴香ペアのダンスがみごとに調和。会場は華やかな雰囲気があふれました

乗った若々しい西田克義・佐藤晴香ダンスペアの登場に観客は一瞬驚き、二人のダンスに目を奪われました。

生演奏でダンスを踊ることは珍しく、悠情さんもダンスとのコラボレーションは初めてのことです。出会いの不思議さを感じ

じます」と言われましたが、人気曲の「情熱大陸」は演奏とダンスがみごとに融合し、力強いフィドルの響きと華麗な衣装で客席のすぐそばを、滑るように踊り抜けていくみごとなステップに、観客は魅了され惜しめない拍手を送っていました。

第一部のラストは「ハンガリー舞曲第5番」を街角楽団調にドラゴンズバーションで楽しく賑やかに締めくくられました。

第二部は楽しい交流の場に

第二部は舞台をティーパーティー会場にしつらえて出演者も加わる和やかな歓談会となりました。初めて森のホールを訪れた方も多く、演奏会場が即パーティー会場となり、打ち解けた雰囲気の中でお茶をいただけることに驚いている様子でした。

お一人、友人同士、お仲間、あるいはご夫妻と、それぞれのスタイルで「フレンズのつどい」に参加下さった方たちは、出演者と歓談し、記念写真を撮り、お茶とお菓子を楽しみ、「きよしの夜」を全員で合唱して楽しいひとときを過ごされました。

【来場者の感想】

○ 悠情楽団の追っかけをしています。いつもは小さなお店ですぐ手の届く所で演奏を聴いています。大きなホールは初めてですが、また違った雰囲気での演奏を楽しめました。
○ 96歳の母と一緒に来ました。母もとても元気で楽しい時間を過ごさ

せていただきました。また来たいです。
○ こんな素晴らしいホールでお茶や、お菓子が楽しめるなんてびっくりしています。初めて来ましたが文化の家は素晴らしいところですね。

ダンスの 佐藤晴香さん

ブログで感動のコメントを発信

※ 機関紙掲載のため編集担当者が抜粋

12月2日、西田先生と私は熱い一日を過ごしていました。というのも長久手文化の家のフレンズさんから依頼をいただき、悠情楽団さんの奏でる素晴らしい音楽と私達の踊る社交ダンスとのコラボレーションコンサートがあったからです。

悠情楽団はプロのミュージシャンで素晴らしい演奏家です。実は生演奏でのデモンストレーションは初めての経験でした。電話とメールで何度か打ち合わせしたものの、合わせるのは当日のリハーサルと本番のみ。内心ドキドキしていたのですが、さすがプロ！私達のダンスを見ながら合わせてくれるのかしら？と思うほどピタリでも楽しく踊ることができました。

今回の経験を通して、あらためて思ったのですが、音楽ってとても大切ですね。生演奏で踊りながら、音楽ってこんなにも心と身体に響くものなのかと感動しながら踊りました。
このような素晴らしい機会をいただきありがとうございます。

劇王 X

～天下統一大会～

2月 9日(土) Aプロ 14時開演 Bプロ 18時30分開演
2月10日(日) Cプロ 14時開演 Dプロ 18時30分開演
2月11日(月・祝) 決勝戦 14時30分開演

(開場はそれぞれ開演の30分前)

風のホール 日時指定・全自由席

1公演券 前売 一般 2,000円 学生 1,500円
1公演券 当日 一般 2,200円 学生 1,500円
5公演通し券 一般 6,500円 学生 3,500円

※未就学児童の入場はご遠慮ください。

— 映像鑑賞会 —

かもめ食堂

原作：群ようこ

脚本・監督：荻上直子

出演：小林聡美、片桐はいり、もたいまさこ

2013年2月2日(土) 風のホール

午前の部 10:00 開演

午後の部 14:00 開演

(開場はそれぞれ開演の30分前)

風のホール 全自由席

入場料 フレンド 400円(前売りのみ)
一般 500円

※未就学児童の入場はご遠慮ください。

JAZZ長久手 ～やっぱりジャズはイイ!

～ ホンモノは生で聴くにかぎる ～

小濱安浩：テナーサクソ 奥村和彦：ピアノ

井上功一：ドラムス 安東昇：ベース

2月23日(土) 18:00開演 17:30開場

風のホール 全自由席

前売 フレンド 1,200円 一般 1,500円
学生 1,000円

当日 フレンド・一般とも 1,800円

学生 1,200円

★★★ 関連イベント ★

★★★

レクチャー「さあ、ジャズを聴こう！」Vol.2

岡崎市図書館の内田修ジャズコレクションの紹介を行います。
国内でも貴重なレコード体験が待っています。

2月3日(日) 14:00開演 光のホール

お話：山東正彦(内田修ジャズコレクション・ディレクター)

入場無料 ただし本公演チケットが必要です。

編集者コラム

十二支の「巳」は『漢書』によると「巳」は(い:「止む」)の意味をもつという。

失われた〇〇年、閉塞感、脱△△…マイナスイメージを「止め」にして新しい希望に溢れたスタートの年となることを願う。

(た)

「民族芸術名人」・伝統保持者らによる ハンガリーの踊りと音楽

バイオリン：ハルモシュ・ペーラ(民俗芸術名人)

三弦ヴィオラ他：ラーニ・ジェルジュ

コントラバス他：ハヴァシュレーティ・パール

踊り：ラーザール・アティツラ 大塚奈美

2013年1月17日(木)

昼の部 14:00 夜の部 19:00

(開場はそれぞれ開演の30分前)

風のホール 全自由席

昼の部 前売 フレンド 1,800円 一般 2,000円
学生 1,500円 中学生以下 1,000円

当日 フレンド・一般とも 3,000円

学生 2,000円 中学生以下 1,200円

夜の部 前売 フレンド 2,300円 一般 2,500円

学生 2,000円 中学生以下 1,500円

当日 フレンド・一般とも 3,500円

学生 2,500円 中学生以下 1,700円

※ 夜の部への未就学のお子さまの入場はご遠慮ください。

豊かな自然とふれあいの公園

長久手市 長配 S・O

ほっと
すぺーす

明けましておめでとございます。長久手市が誕生して初めての新年を迎えました。今年こそ災害のない穏やかな日々と、活気ある明るい年であるように願っての初詣でした。

長久手まちづくり基本理念の「人が輝き緑あふれる交流の長久手市」を受けて様々な事業が展開されていますが、昨年十一月・市制記念演奏会があり、ベートーヴェン交響曲第九番「合唱つき」の演奏会に出席しました。市民参加の演奏は力強く自信に溢れ、すばらしいハーモニで深く心に響きました。開演に先立ち市長のご挨拶があり「私はこのまちを雑木林のようにしたい、いろんな人が住み、意見を出し合い成長して行くまちづくりを目指しております」との言葉を温かく身近に感じました。

私は日々の生活の中で、自然豊かで環境に

やさしいまちを実感しています。近くに杵ヶ池公園がありますが、自分の庭のような公園から沢山の癒しをいただいております。春、雨上がりの新緑は輝きを増して思わず歓声が上がります。水のぬるむ頃からは元気な子供達の水遊びの歓声、そして若い母親の子を見守る笑顔や交流、犬と散歩の家族やウオーキング、広場では子供達のボール遊びや遊具遊び、池の魚を釣る親子連れ、一年を通して除草や清掃をしてくださるシルバー人材センターの会員、秋にはもみじの落葉で敷きつめられた木の下で素足で遊ぶ子供達。それぞれ大切な憩いの場です。

昨秋は、ことのほか美しく輝いた公園でしたが、また春が巡って若葉の枝を大きく広げる風景を、長久手市の発展と共に楽しみにしている私です。